



青カミシ

烏山北小学校の教育目標

◎すすんで学びよく考える子ども

○豊かな心をもち仲良く助け合う子ども

○すすんで健康な体をつくる子ども

重点目標 みとめあい まなびあい そだてあい

<目指す児童像> 「かしこい子」「らしさを大事にする子」「きりつ正しい子」「たくましい子」

令和7年10月31日(金)

創立73周年 No. 7

烏山学舎 世田谷区立烏山北小学校 校長 河野 芳浩
〒157-0061 世田谷区北烏山6-3-1 TEL3300-5764 FAX3300-5785
学校HP <http://school.setagaya.ed.jp/kata/>



粘り強く真実を追い求める力は、楽しさから♪

校長 河野 芳浩

スウェーデンのカロリンスカ研究所は、2025年のノーベル生理学・医学賞を、坂口志文(さかくち しもん)大阪大学特任教授に授与すると発表しました。

坂口教授の偉業は、私たちの体を病気から守る「免疫(めんえき)」という仕組みの中に隠されていた、非常に重要な「ブレーキ役の細胞」を発見したことです。この細胞は「制御性T細胞(せいぎょせいティーさいぼう)」と名付けられました。

私たちの体には、ウイルスや細菌(さいきん)を攻撃する、免疫というヒーローチームがいます。このチームがしっかり働いてくれるおかげで、私たちは健康に過ごすことができます。しかし、この免疫のヒーローが、時々、勘違いして自分の体の細胞まで攻撃してしまうことがあります。これが「アレルギー」や「自己免疫疾患」と呼ばれる、つらい病気の原因になります。

坂口教授は、長年の研究の末、この免疫の過剰(かじょう)な攻撃を止めて、バランスを保つ働きをする、特別なT細胞(リンパ球の一種)が存在することを証明しました。この「制御性T細胞」こそが、体の中の免疫システムが暴走しないための、なくてはならないブレーキだったのです。

この発見が特にドラマチックだったのは、坂口教授がこの「ブレーキ役の細胞」の存在を主張し始めたとき、世界の科学者のほとんどが信じてくれなかったという点です。発見した細胞は、免疫細胞全体の中でもたった数パーセントというごくわずかな数しかありませんでした。そのため、当時の技術では見つけることが非常に難しく、「そんな細胞は存在しない」と否定されてしまったのです。

しかし、坂口教授は「これは必ず、人類の病気を治すカギになる」という確信をもち、周囲の反対や困難にもめげず、40年以上にわたって地道な実験と研究を続けました。

坂口教授の制御性T細胞の発見は、現代医学に革命をもたらし、現在では様々な病気の治療に応用され始めています。坂口教授の発見が、今、世界中の難病に苦しむ人々へ未来への希望の光を届けています。

坂口教授のノーベル賞受賞は、ただの科学的な成功だけではありません。私たちすべての人に、大切なことを教えてくれています。それは、「自分の目を見て、正しいと信じたことを、簡単にあきらめずにやり続ける勇気」です。

身近な生活の中にも「なんでだろう?」「これって本当にそうなのかな?」という疑問はたくさんあるはずです。慌ただしい生活の中では立ち止まる余裕すらうばわれがちですが、自分の好奇心と探求心を大切に、坂口教授のように粘り強く真実を追い求めていく力を、北小の「まなびあい みとめあい そだてあい」の生活で、育んでいきたいと考えます。

学びの秋、実りの秋を迎えます。今月の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

